

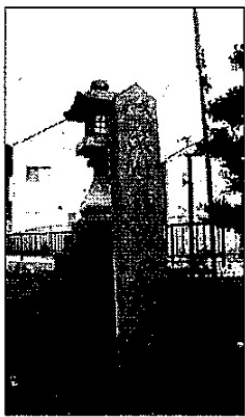
「須波麻神社」

大東市最古の神社

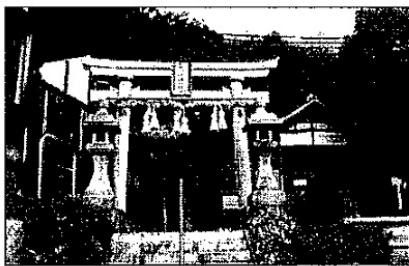


須波麻神社の参道は、東高野街道から真東に延びています。街道から100メートルほど行くと、大正2年(1913)に建てられた石柱や昭和6年(1931)に寄進された常夜燈があり、そこから300メートルほど進むと鳥居が見えてきます。東高野街道と神社の比高差は約20メートルあり、標高約30メートルの場所にある境内から、大阪平野の町並みを見下ろすことができます。

須波麻神社は、大國主命を祭神とする式内社です。式内社とは、平安時代(10世紀前半)にまとめられた全国の神社一覧「延喜式神名帳」に記載された神社のことを言い、須波麻神社は市内唯一の式内社であることから、最古の神社といえます。「須波麻」という名称は、奈良時代の宝亀11年(780)に著わされた「西大寺資財流記帳」という書



参道の石柱と常夜燈



須波麻神社の外観

物に登場する「渚濱庄」という古地名に由来すると言われていています。中垣内付近にあったとされる渚濱庄は、当時の河内湖の東岸に位置していたことから、南都の大寺院・西大寺と西日本各地を結ぶ物流の拠点だったのではないかと考えられます。須波麻神社に関する古記録はあまり残っていませんが、かつては讚良郡(現在の東大東市・四條畷市・寝屋川市の一部)と若江郡(現在の東大阪市の八尾市の一部)の数十ヶ村に氏子があったと言われていました。また明治40年(1907)には、大谷神社(寺川)、坐摩神社(深野南)、龍間神社が合祀されたこともありましたが、後に分離し、現在は中垣内地区の氏神として信仰されています。

今回は、須波麻神社の社殿や秋祭りについて紹介します。(生涯学習課)

「須波麻神社の社殿と祭礼」



須波麻神社の境内には4つの建物があります。鳥居の左手には社務所があり、正面の石段を上ると、奉納された絵馬や相撲番付が掲げられた絵馬堂が右手にあります。さらに石段を上ると、正面に拝殿があり、その奥の一段高いところには春日造りの本殿が鎮座しています。これらの社殿は、今から100年以上前の明治36年(1903)に建立されました。明治43年に氏子から奉納された「須波麻神社境内図」という絵馬からは、社殿建立当時の境内の様子がうかがい知ることが出来ます。絵馬に描かれた境内の配置図は、おおむね現在の姿と同じですが、本殿と拝殿をつなぐ渡り廊下は絵馬に描かれていないことから、これより後に増築されたものと考えられます。

毎年10月中旬には、須波麻神社の祭礼が執り行われ、高さ5メートル余り



須波麻神社の本殿



「須波麻神社境内図」



俄芝居の様子

の勇壮な地車が神社を出発し、中垣内地区内を曳行します。曳行日前日の夜には、民謡や歌舞伎の演目などをもとにした「俄芝居」といわれる劇が社務所の特設舞台上で上演されます。芝居を演じる役者は地元青年団のメンバーで、台本や衣装も有志で制作しています。芝居の内容は、時代劇や現代劇をアレンジしたもので、その年の時事ネタなども盛り込まれます。このような俄芝居の風習は、かつては各地に存在していたそうですが、戦争による中断や地元組織の衰退により次第に行われなくなり、現在大東市内では、中垣内地区と御領地区のみで継承されています。地車曳行と俄芝居は、いずれも中垣内地区の伝統行事として多くの住民に親しまれています。(生涯学習課)